

このところ、マクロ・ミクロの各経済指標とも、改善傾向が続いており、ここに来て、今まで改善の兆しのみえなつた、雇用情勢等も改善の動きが見られるようになりました。また所得の伸びが期待できないながらも、消費に関する指標にも改善の動きが出てきており、景気はひき続き緩やかな上昇トレンドを辿っているようです。ただ、最近、米国の金利引き上げ観測から、日本国内に向かっていった資金の動きに変化が生じており、株安、円安の圧力がはたらいています。ともあれ、**急激な資金の逃避は、折角の景気上昇トレンドに水をさしかねないので、非常に気になる場所です。**

### 素材インフレ（その後）

前回のリサイクル通信で弊社取扱いの鉄スクラップを含め、素材関連の値上がりを取り上げ、それが中国の旺盛な素材需要に起因することをお話ししました。北京五輪、上海万博といった大型イベントに伴う整備需要やその他交通機関等のインフラ整備に伴う建設需要も発生してくることは確かです。長期的には価格の上昇圧力がはたらくと考えられます。ただ、我々が関与している鉄スクラップの、今年



国際環境規格 ISO14001

長沼商事株式会社

埼玉県所沢市林 1-306-7

には入つての急激な価格上昇とその反動（調整）といった一連の動きには、中国国内の急激な設備投資とその結果生じた過剰供給能力、過剰在庫リスク（への当局の諸規制による対応）が重なります。中国国内における投機的な需要予測に基く民間の過剰なまでの設備投資は、当局の予想を超え、過剰した経済成長となつて現れ、急ブレーキをかけたものの、すでに遅し・・・で、市場もまた、すぐには言うことを聞いてくれなかつた。・・・ということではないでしょうか。今後、鋼材・セメント等の素材産業を中心に非効率な小規模企業の統廃合や新規投資の抑制政策が取られるとのこと。需給調整に目処がつくまで、日本への影響はというと、価格の調整圧力となつて、しばらくは作用するものと考えられます。

瀬戸内海の豊島の不法投棄から始まり、岩手・青森県境の不法投棄、岐阜県産廃業者の不法投棄等と大規模な不法投棄の状況が次々と明るみに出るなか、ある調査によると、国内の不法投棄処理費用は、一兆円を越えるとも言われております。現行の国と自治体の処理予算合計をはるかに超えており、処理の進捗も気になります。処理費用調達の方法等も非常に気になる場所です。

このような状況を背景に、**国も自治体も産業廃棄物処理業者の優良化事業なるものを進めています。**自治体では、既に岩手県が、第三者の評価機関を立上げ、「基準適合者」の認定をスタートさせております。処理管理体制や財務状況等の40項目の自己評価書類を提出させ、加点方式の審査で適合業者を認定しているとのこと。国においても、**評価基準**なりを今年秋に政令に盛り込み、早ければ来年の春ごろに施行するとも言われています。

ともあれ、悪質業者が次第に淘汰されていくことは我々業界にとつても喜ばしいことですが、気になるのが評価基準です。この業界は、中小企業が担っている部分が圧倒的に大きいのです。大資本へ誘導させるような評価基準で、結果として中小業者が淘汰されていくような基準ではないことを期待します。中小企業といえどもモラ

ルの構築とそれを裏付ける管理体制及び財務的基盤等がしっかりしていれば、社会的責任は充分に果たせるからです。

### 雑談「環境創造」

「環境創造」・・・私がこの言葉を聴いて最初にイメージしたのが、昔の入会地（いりあいち）でした（私が山育ち故かもしれません）。村の人達の共同利用エリアで、山とか林等が其の対象でした。村人たちが平等に山や林の恵みを受ける権利を持ち、草刈りや余分な灌木を伐採し、また枯れ枝や枯葉を採集し、生活資材としていました。そのような自然との関りをみてみると、古来より日本には自然を破壊・収奪するといった態度（思想）がなかつたように思います。和辻哲郎の「風土」論を引き合いに出すまでもなく、自然豊かな日本は、自然は敵対・征服の対象ではなく、恵みを与え、人間を包容してくれる神的存在として古来より考えられて来たのです。自然の恵みを得るために、自然の蘇生力を傷つけず、寧ろ積極的に蘇生力を維持・回復させるような右のような行為を、**手入れ**（今では死語？）という行為で言ってきました。そこには、自然と人間との微妙な調和が保たれており、環境創造の原点とも言える行動原理が読み取れる、と言ったら言い過ぎでしょうか。